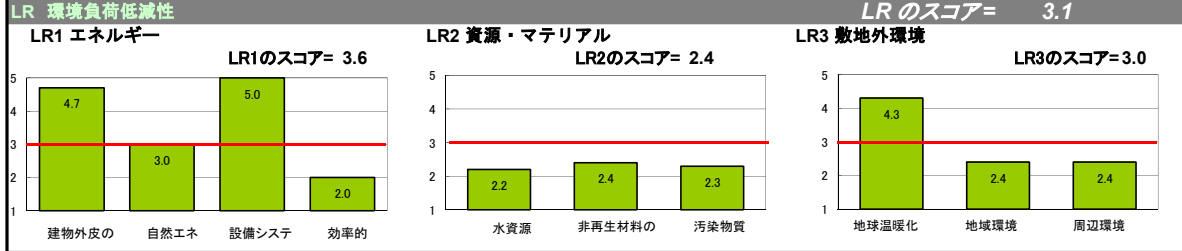
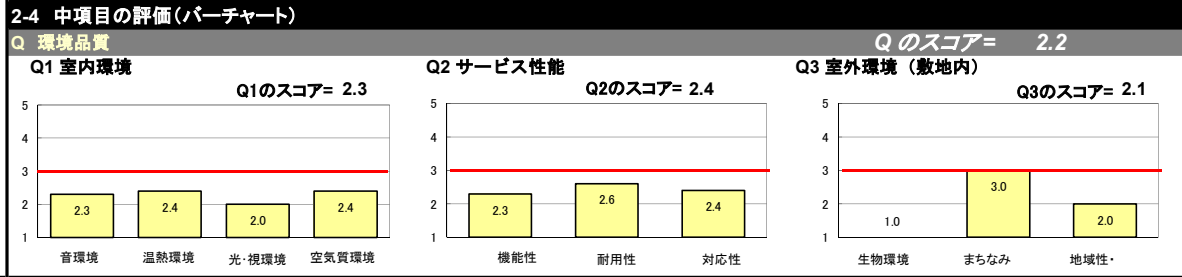
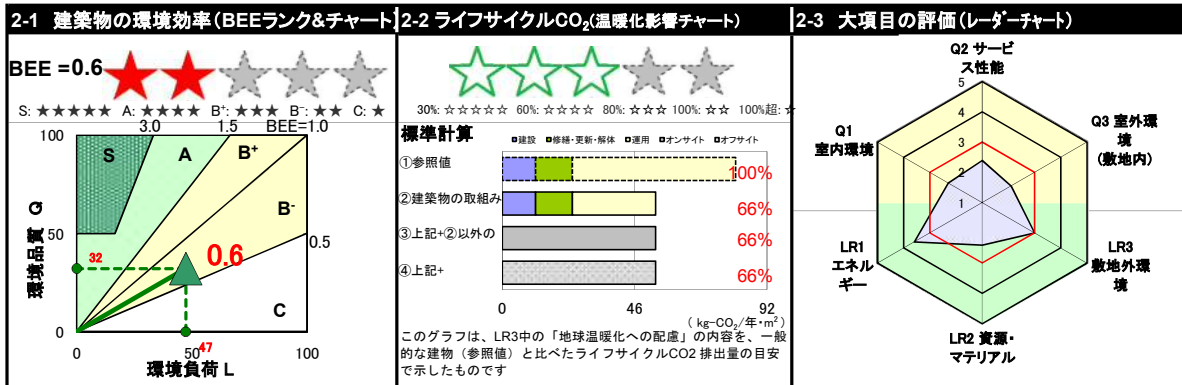


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グランドギャラリー	階数	地下1階地上3F
建設地	愛知県岡崎市	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	229 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集会所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2017.08.01
敷地面積	3,180 m ²	作成者	成瀬 徳行
建築面積	1,690 m ²	確認日	2017.08.01
延床面積	5,901 m ²	確認者	成瀬 徳行



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">11.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部全体・共用部除く・宿泊		住居・宿泊部分		全体
配座項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数
	重点項目							
Q 建築物の環境品質								2.2
Q1 室内環境								2.3
1 音環境								2.3
1.1 室内騒音レベル								2.3
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								2.4
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ソーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								2.0
3.1 昼光利用								
1 昼光率				高窓を8ヶ所設置				
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気環境								2.4
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆使用				
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								2.4
1 機能性								2.3
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画				独自				
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)				天井高2500以上あるが、窓がない部屋がある				
2 リフレッシュスペース				十分なスペースを確保 自販機等設置				
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				②				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								

3 対応性・更新性				2.4	0.29				2.4
3.1 空間のゆとり				1.4	0.31				
1 階高のゆとり			階高3400以上確保している	2.0	0.44				
2 空間の形状・自由さ				1.0	0.56				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				2.8	0.38				
1 空調配管の更新性		②		2.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37				2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BEI=0.85	4.7	0.08				4.7
2 自然エネルギー利用				3.0	0.26				3.0
3 設備システムの高効率化			LED照明採用	5.0	0.40				5.0
4 効率的運用				2.0	0.27				2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00				
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制				2.0	1.00				
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				2.4
1 水資源保護				2.2	0.15				2.2
1.1 節水				1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.63				2.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.3	0.22				2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				2.0	0.68				
1 消火剤									
2 発泡剤(断熱材等)				1.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮		①	緑地スペース確保	4.3	0.33				4.3
2 地域環境への配慮				2.4	0.33				2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	駐車スペースの確保	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33				2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40				
1 風害の抑制				1.0	0.70				
2 砂塵の抑制									
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70				
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

クラフトギャラリー

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.4
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:11.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 グラントギャラリー

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境に配慮した外装デザイン ・メンテナンス性に配慮した設備設計
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・空調・換気・照明設備に対して十分な設備内容の確保
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・十分なスペースの確保
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・景観形成に寄与した外壁デザイン ・展示スペースによる開放スペース確保
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・LED照明をベースとした高効率機器の採用
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロン・フロンを回避した断熱材の仕様
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水負荷抑制に配慮した外構計画 ・敷地周辺の温熱環境に配慮した空調機のレイアウト
その他	